I 造紙の源流……1
紙つくりは前漢期に始まる　2
古代絮紙の「絮」の解釈　5
造紙原初期の澆紙法　9
固定式布簾から組立式紙簾へ　15
紙料液を均質にする紙薬　19
大判の紙と薄紙をつくる技法　24
樹皮紙の製法　27
竹紙の製法　31
II 料紙加工の技法……35
墨筆で書写するのにふさわしく　36
紙をみがき平滑にする　39
墨汁のにじみを止める　43
紙を染めて美しくする　46

千変万化の文様染め—流沙紙と墨流し　50
金銀箔できらびやかに飾る　56
文様を印刷する　59

III
古代日本の紙……61
造紙術の朝鮮への伝播　62
渡来人が伝えた造紙法　65
奈良時代の生産機構　69
『正倉院文書』と写経の料紙　74
『延喜式』の諸規定　78
漉き方による紙質判定の矛盾　82
より薄く強靭な紙をつくる「流し漉き」　87
優美な和歌の料紙　91
中央の紙と地方の紙　96

IV
多様化した中世の和紙……103
優位を確立した地方産紙　104
繭肌のような皺のある檀紙と引合紙　110
武家社会にふさわしい杉原紙　118
高級な文書用の奉書紙　121

生漉きで用途の広い美濃紙　124
平滑で典雅な鳥子紙　127
極薄でねばり強い奈良・吉野の紙　129
製法面からみた主要紙の特徴　132

V
近世町人社会の紙……135
町人層の需要で重要物資に　136
流通の仕組みと専売制　138
近世の主要な紙種とその主産地　141
半紙・小半紙と半切紙　144
庶民の生活に密着した加工素材として　149
紙寸法の移り変り　154
紙の表と裏　157
簀目の数と紗漉き　160

VI
近代和紙業界の変容……165
製紙環境の急激な変革　166
和紙原料の多様化　170
洋紙と競った量産方式の試み　172
連漉器と仕上げ寸法の大判化　175